

学会主催者に聞く “市民と学会を繋ぐもの”

2025年9月9日(火)～12日(金)、九州大学伊都キャンパスで開催される『2025年度日本建築学会大会(九州)』の大会実行委員会委員長 末廣香織先生にお話を伺いました。

Q1 日本建築学会は、毎年約1万人の建築業界関係者が集まる国内でも大規模な学会ですが、2025年度大会のテーマや注目ポイントについてお聞かせください。

本大会のテーマ「アジアから考える」は、近代建築がヨーロッパ中心で発展してきた歴史を見直し、地球温暖化や環境問題といった現代の課題にアジア的視点で対応する重要性を提起しています。例えば、ヨーロッパでは、断熱機密性を高めた建築が主流ですが、亜熱帯のアジアでそのまま使用できるわけではありません。自然をコントロールするヨーロッパ的価値観とは異なり、自然と共存するアジアの文化や価値観を手がかりに、新たな建築・都市の可能性を模索することが求められています。

注目していただきたい点は、海外の著名建築家による、これからのアジアの建築家としての在り方について議論する記念講演会と国際シンポジウム(*)です。市民の皆様にご参加いただきたいですし、建築ツアーも開催します。

*9月10日(水)アクロス福岡で開催予定。詳しくは間もなく公開予定の学会ホームページをご覧ください。

Q2 福岡市では『天神ビッグバン』や『博多コネクティッド』という100年に1度といわれる建築ラッシュが続いています。先生は、審査委員という立場で街づくりに関わってこられました。街づくりと建築家そして市民とのつながりについてお話しいただけますか？

天神ビッグバンは、建物の容積率緩和を起点として、天神中心部の老朽化したビルを国際基準に見合うよう建て替えを促進したものです。そのビルの大型化にあたっては、本来市民のみんなが使えるような公共性の高い施設や場所を含む建物をどう盛り込むかということが問われていると思います。そのようなことを街づくり協議会などで検討し、デベロッパーに貢献してもらえよう交渉しています。例えば、30年前に建てられたアクロス福岡は、まだ環境問題が重視されていない頃に思い切った緑化を実現した建物で大変先見性があり、世界的に有名な公共性の高い建築物と言っていいでしょう。天神ビッグバンでも、高い建物群のビルの谷間だらけにならないよう、足元部分や地下については、公共性を重視したものになると思います。

Q3 福岡市西区にある『浜地酒造株式会社・杉能舎』の築150年の旧酒蔵を改修する際、九大建築学科の学生のアイデアが採用され、年内に「酒蔵ガルテン」としてオープン予定です。今後、地域や学会の交流の場として人気になりそうですね？

庭のある雰囲気の良い場所で、造り酒屋の美味しい日本酒やクラフトビールなどが楽しんでもらえるイベント会場になると思います。元々は、九大BeCAT(*)が、学生たちと九大がある糸島地区で、地域の歴史と環境保全そして資源の循環を考え、建物の企画から社会実装そして検証するまでを学ぶ機会として、いくつかのプロジェクトに取り組んでいて、そのひとつが浜地酒造の改修プロジェクトです。課題山積みで工期は延びましたが、完成への道筋が見えてきました。苦労しながら建築を作り上げると、関わった皆さんが喜びを感じます。単純ですが、それが建築の醍醐味だと思います。

*BeCAT(ビーキャット)は、九州大学が運営する環境をテーマにしたデザインとエンジニアリングの教育・研究センター。



すえひろ かおる
■末廣 香織氏 プロフィール
建築家。九州大学大学院教授。NKS2アーキテクト共同主宰。
1986年九州大学大学院修士課程修了。
1994年ベルラーヘ・インスティテュート建築学大学院修了。1993年ヘルマン・ヘルツベルハー建築設計事務所。
1994-98年九州大学工学部建築学科助手。1998年-NKSアーキテクト共同主宰。2005年-九州大学大学院准教授。2022年-九州大学人間環境学研究院都市・建築学部門教授。BECAT副センター長。



天神ビッグバンで立て替った天神ビジネスセンターとONE FUKUOKA BUILDING。角のファサードを切り崩すようなデザインで、オフィススペースとパブリックスペースを融合させた設計になっている。



松永センター長による開催事例発表

九州大学コンベンションセミナー開催

2024年12月17日(火)、九州大学伊都キャンパスにおいて約50名の九州大学関係者の皆さまにご参加いただき、九大国際部共催によるコンベンションセミナーを開催しました。

第1部は、九大周辺にある学会の交流会場として、浜地酒造、グローバルホテル糸島、seven×seven糸島をバスで視察。第2部では、岩田健治理事・副学長のご挨拶をいただき、福岡市の取組みや開催支援の説明を行った後、水素材料最先端科学研究センター松永久生センター長・教授、玉田薫副学長・主幹教授によるMICE実例のご紹介をいただきました。第3部は、学会用のお弁当の紹介とケータリングの試食・試飲をしていただきながら、コンベンション開催に向けて意見交換を行いました。(MICE開催のご相談は『九大デスク』092-733-0101まで)